



プラットフォーム・エコノミー —新しい経済と私たちの働き方—

Web上のプラットフォームを介した経済活動「プラットフォーム・エコノミー」が広がり、労働力の取引にも活用されるようになってきました。マッチングアプリによる単発仕事、登録制で配達案件を請け負うデリバリー、オンラインで業務を受けるフリーランスなど、多様な働き方が広がっています。しかし、こうしたプラットフォーム労働では、たとえ雇用労働であっても、従来の社会保障制度が十分に機能しないことがあります。個人事業主として働く場合は、労働基準法や最低賃金法などの保護が及びません。さらに、働きぶりや成果の評価が、人ではなくアルゴリズムによって行われるケースもあり、新しいテクノロジーが働き方に与える影響が注目されています。ILOは、2025年と2026年の討議を経て、プラットフォーム労働に関する新たな条約や勧告の策定を進めています。日本でも、その現状と課題を共有し、働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）の実現に向けて何が求められるのか、議論を深めたいと思います。政労使はもちろん、学生や市民の皆さんのご参加をお待ちしています。

日時

2025年 **10月14日** 火
14時～16時20分

会場

法政大学市ヶ谷キャンパス
ボアソナードタワー 26F スカイホール
(東京都千代田区富士見2-17-1)

参加
申込

要参加申込み [10月9日(木) 締切]

参加希望の方は、2次元コードまたは、
下記URLよりご登録ください。

申込URL

<https://forms.gle/XmcsABkRA466jfrd8>



参加費 無料

プログラム

主催者挨拶：榎 一江（法政大学大原社会問題研究所所長） 富田 望（ILO 駐日代表）

第1部：2025年第113回ILO総会について

総会討議資料「Realizing decent work in the platform economy」より、日本の現状からの問題提起

- ◎ 政府の立場から：加藤 正嗣（厚生労働省 労働基準局労働条件政策課労働時間特別対策室長）
- ◎ 労働者の立場から：斉藤 俊和（連合 国際政策局長）
- ◎ 使用者の立場から：坂下 多身（経団連 労働法制本部 統括主幹）

第2部：パネルディスカッション

「プラットフォーム経済においてディーセント・ワークを実現するために、何ができるか」

プラットフォーム労働とワークルールの課題：沼田 雅之（法政大学法学部教授）

スキマバイトの光と影——自由と引き換えの不安定を体験して：黒川 伊織（会社役員／神戸大学協力研究員）

ディスカッション

司会・モデレーター：藤原 千沙（法政大学大原社会問題研究所教授）